

大野城市民読書活動推進計画【概要版】 計画期間：令和5～14年度

第1章 計画の策定にあたって

<趣旨>

大野城市では、乳幼児から高齢者、そして障がいの有無などに制限されない『すべての市民』の読書活動を推進し、あらゆる世代が読書に親しむことができるまちづくりを目指し、長期的な指針として平成31年度に策定した「第3次子ども読書活動推進計画」を包含した「市民読書活動推進計画(以下「計画」という。)」を策定しました。

<計画の位置づけ>

本計画は「子どもの読書活動の推進に関する法律」「文字・活字文化振興法」「読書バリアフリー法」に基づくものとし、「大野城市総合計画」を最上位計画として、市の各種計画と整合性を図りつつ、市全体で取り組みます。

<計画期間>

令和5年度から令和14年度までの10年間とします。なお、中間年度(令和9年度)に具体的な事業などを見直すとともに、社会情勢の変化や計画の進捗状況など、必要に応じて見直しを行います。

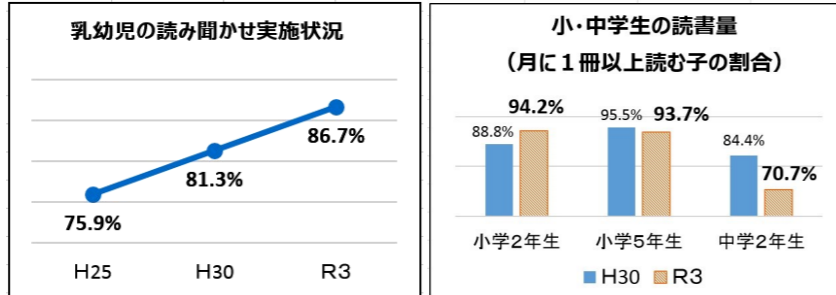
第2章 読書活動の現状と課題

<本市における読書活動の現状>

●市民アンケート結果

家庭での乳幼児への読み聞かせ実施率の割合は年々増加しています。一方、小・中学生の読書率は減少しており、特に中学生で深刻な読書離れが進んでいます。

また、市内の“読書の場”である、まどかぴあ図書館、地域貸出文庫、コミュニティセンター(図書コーナー)の利用経験については右表のとおりです。特に地域貸出文庫、コミュニティセンター(図書コーナー)は市民の約8割が利用していないことがわかりました。



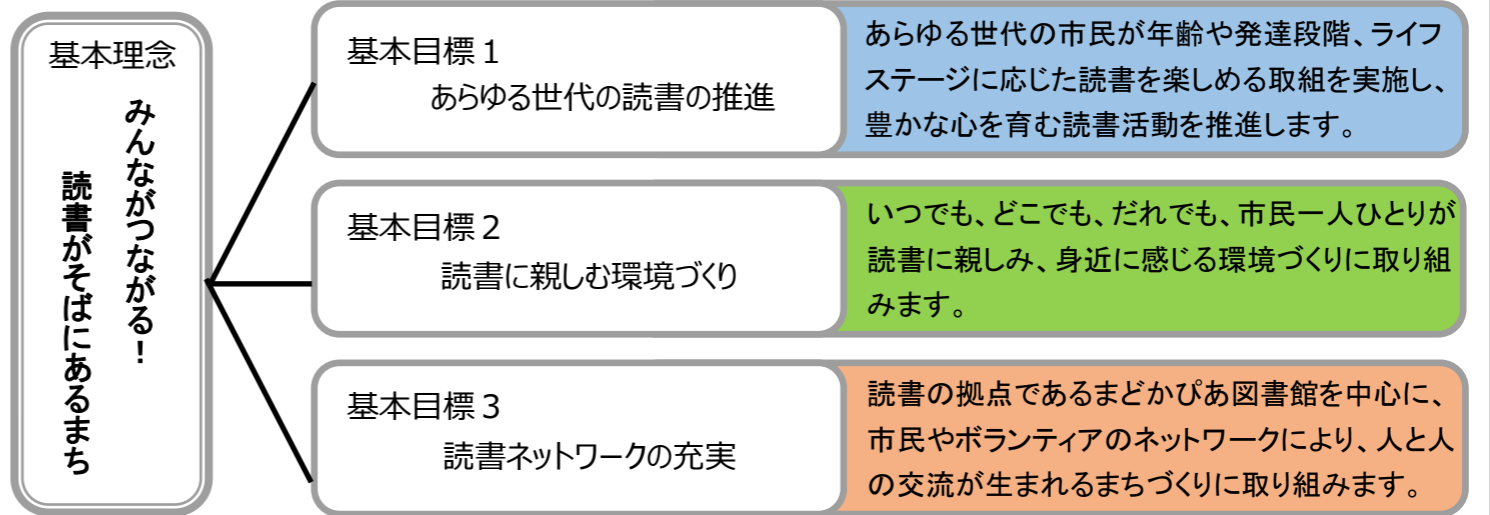
市内施設を利用したことがある割合

まどかぴあ図書館	57.0%
公民館(地域貸出文庫)	19.6%
コミュニティセンター(図書コーナー)	16.1%

<読書活動を取り巻く課題>

読書の習慣づけ	幼少期の習慣づけ、不読率の改善、環境やきっかけづくり、情報発信等の取組強化 など
まどかぴあ図書館と他の読書活動の場の連携	公共施設等との連携による期待された役割の推進
新型コロナウイルス感染症等への対応	来館せずに安心して利用できるサービスの提供 など
「読書バリアフリー法」をふまえた対応	バリアフリー資料やサービスの充実、利用促進 など
読書活動支援者からの相談対応	気軽に相談できる窓口体制の充実、選書等の支援 支援者同士での情報共有の場の提供 など
担い手不足を支え合う体制づくり	ボランティアの交流促進、支援体制づくり など

第3章 本計画の目指す姿



第4章 施策の展開

<施策ごとの重点事業>

施策ごとの成果指標	策定時	R9目標	重点事業	
基本目標1	家庭での読み聞かせ実施率	86.7%	90.0%	◆「Babyぱらら」「こぱらら」の発行 ◆ブックスタート事業 ◆図書館での対象年齢に応じたおはなし会
	小・中学生の読書率	小2 94.2% 小5 93.7% 中2 70.7%	98.0% 98.0% 75.0%	◆小学生読書リーダーの養成 ◆図書館利用案内とブックリストの配布 ◆「自由研究ひらめきカード」の発行
	高校生以上の学生の読書率	77.8%	80.0%	◆おすすめ本や新着情報の提供
	社会人の読書が好きな人の割合	79.6%	82.0%	◆パスファインダーの発行
	高齢者の読書が好きな人の割合	80.6%	83.0%	◆はつらつセカンドライフコーナーの資料充実
	図書館の市民の新規利用登録者数	1,458人	1,800人	◆レファレンスサービスの充実 ◆特集コーナーの充実 ◆ホームページやSNS等を活用した情報発信
基本目標2	図書館の利用者満足度	79.9%	83.0%	◆移動図書館のイベント等への出張
	地域貸出文庫の年間貸出冊数	8,258冊	8,400冊	◆地域貸出文庫の図書資料充実 ◆コミュニティセンターの図書資料充実
	図書館の貸出冊数(※電子含む)	783,794冊	793,000冊	◆図書館でのリクエスト受付
	バリアフリーサービスの認知度	17.0%	20.0%	◆バリアフリー資料の充実 ◆外国語コーナーの充実
基本目標3	レファレンス・相談窓口利用者満足度	—	80.0%	◆相談窓口及びレファレンスサービスの活用促進
	読書ボランティア延べ活動人数	520人	530人	◆各種読書ボランティア講座の実施 ◆読書ボランティア情報交換会の実施
	イベントの参加者数	4,828人	6,320人	◆イベントの実施